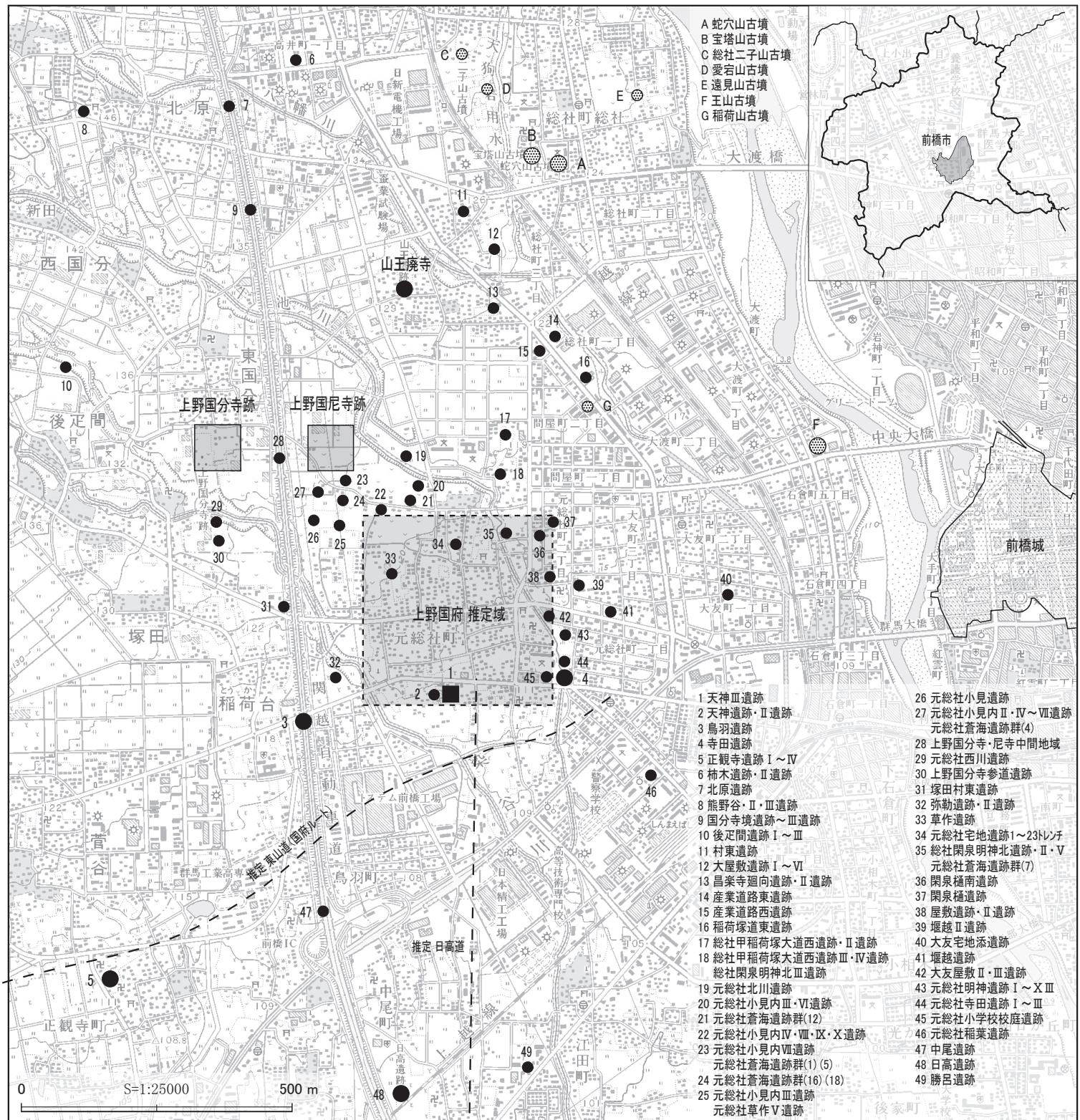


前橋市 天神Ⅲ遺跡

レオパレス21小鮎邸新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2008. 08

前橋市教育委員会

国土地理院発行「数値地図25000(地図画像)宇都宮」(平成15年11月2刷)使用

例 言

- 1 本書は、小畠弘充氏によるレオパレス21新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、小畠弘充氏の費用負担によって行われた。
- 3 発掘調査及び整理作業は、前橋市教育委員会の指導・監督のもと、有限会社歴史考房まほらが実施した。
- 4 発掘調査の事項は以下のとおりである。

遺跡名稱	天神Ⅲ遺跡 調査コード:20A140-1
調査主体者	前橋市教育委員会 教育長 中澤 充裕
遺跡所在地	前橋市元総社町字早道825番地1
調査担当者	山下 嶽信(前橋市教育委員会)・大嵩崎 泰明(有限会社歴史考房まほら)
調査期間	平成20年6月2日～平成20年6月15日
調査面積	約172.2m ²
整理期間	平成20年6月16日～平成20年7月31日
- 5 本書の執筆は「1 調査に至る経緯」を山下が、「4まとめ」を笠原が、その他を大嵩崎が行い、編集は笠原・大嵩崎が行った。
- 6 測量は田中隆明に、遺物写真撮影は山際哲章に委託した。
- 7 発掘調査資料、出土遺物は一括して前橋市教育委員会に保管している。
- 8 発掘調査・整理作業に従事した者は次のとおりである。(五十音順・敬称略)

発掘調査:	五十嵐慶三郎・国定茂・志村久子・森田全彦・山口勝正
整理作業:	栗山佐江子・渡辺由美
- 9 発掘調査から報告書刊行に至るまでに、下記の諸氏・機関に協力を賜った。(敬称略・50音順)

佐々木清貴・勢藤力・村田優子・山下工業㈱・レオパレス21高崎支店

凡 例

- 1 本書に使用した地図は、国土地理院発行『数値地図25000(地図画像)宇都宮』(平成15年11月2刷)である。
- 2 本書掲載図の縮尺は各図に示したとおりである。
- 3 掲載図の北方向は座標北方向角を、水準線は標高を示す。座標値は日本測地系IX系を用いた。
- 4 遺物観察表の色調は『標準土色帖』(財団法人日本色彩研究所色票監修)を使用した。

目 次

例言・凡例・目次	
1 調査に至る経緯	2
2 調査経過概要	2
3 遺構・遺物の概要	2
4 まとめ	12
5 群馬県内の八稜鏡出土事例	13
抄録	裏表紙

掲載遺構図・写真

遺跡周辺図	表紙	H-1～5出土遺物	7
遺跡全景、H-1～5完掘全景	3	H-5～12出土遺物	8
緑釉陶器・灰釉陶器出土状況	3	W-2～7、D-2～5、P-1出土遺物	9
遺跡全体図・遺構断面図	4	遺構外出土遺物、緑釉陶器、八稜鏡	9
D-2、H-11カマド遺物出土状況	5	各遺構出土遺物	10
H-7・8・11・12、B-1、D-1・2・5完掘全景	6	遺構新旧関係図	12
W-1・7、P-1、道?完掘全景	7	群馬県内の八稜鏡出土遺跡および伝世地	13

1 調査に至る経緯

平成20年3月14日(株)レオパレス21高崎支店より元総社町についての埋蔵文化財確認調査の実施依頼を受けた。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地(上野国府跡)に属し、西と北の隣接地点で天神遺跡・天神Ⅲ遺跡の発掘調査が行われているため、事前に試掘調査を実施し、遺跡の有無、遺構までの深さや内容を確認する必要が生じた。

これを受け平成20年5月23日に試掘調査を行った。その結果、奈良～平安時代の住居跡と土器等も検出したため協議を行った。現状での保存が不可能との事から、記録保存を目的とした発掘調査について調整に入った。

平成20年6月にレオパレス21建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。本市教育委員会ではこれを受け、建設建物予定地の調査を実施した。なお、現地調査は本市教育委員会指導のもと、(有)歴史考房まほら(調査員 大嵩崎泰明)が担当した。

2 調査経過概要(平成20年6月2日～平成20年6月15日)

- | | |
|---------|---|
| 6月2日 : | 調査着手。重機による表土掘削開始。器材搬入。 |
| 6月4日 : | 遺構調査開始。W-1検出。 |
| 6月5日 : | H-1～6検出。 |
| 6月6日 : | H-7検出。H-1より緑釉陶器出土。 |
| 6月7日 : | H-8検出。 |
| 6月9日 : | H-9検出。H-6より円面硯出土。D-2より八稜鏡出土。平面断面図作成。遺物出土地点記録。 |
| 6月10日 : | 調査区東半分について遺構検出面まで、重機により再度掘り下げ。10～12号住居検出。 |
| 6月11日 : | D-1～5、W-2～4(道路)、B-1検出。 |
| 6月13日 : | W-5～7検出。全景写真撮影。 |
| 6月14日 : | ピット検出。平面断面図作成。遺物出土地点記録。器材搬出。 |
| 6月15日 : | 終了検査。調査終了。 |

3 遺構・遺物の概要

本遺跡は推定国府域の南端部に位置し、奈良～平安時代の集落である天神遺跡(1986 前橋市教委)の東側に隣接している。調査の結果、奈良～平安時代の住居跡、中世以降の堀・道?などが確認されたが、特に奈良～平安時代については住居跡が密集した状態にあり、出土遺物も一般的な集落ではあまり見られない八稜鏡・緑釉陶器・大型円面硯など特殊なもののが認められた。また、調査区西端部に確認された堀は、蒼海城(室町時代築城)の範囲に含まれることから、この蒼海城の堀の一部である可能性がある。

遺構 : 古代の住居12軒、掘立柱建物1棟、道路1条、ピット1基、中世の堀、溝

遺物 : 古代の土師器、須恵器(香炉・円面硯)、緑釉陶器、灰釉陶器、布目瓦、八稜鏡、刀子、馬齒

遺跡全景 H-1~5 完掘全景



遺跡全景／東から



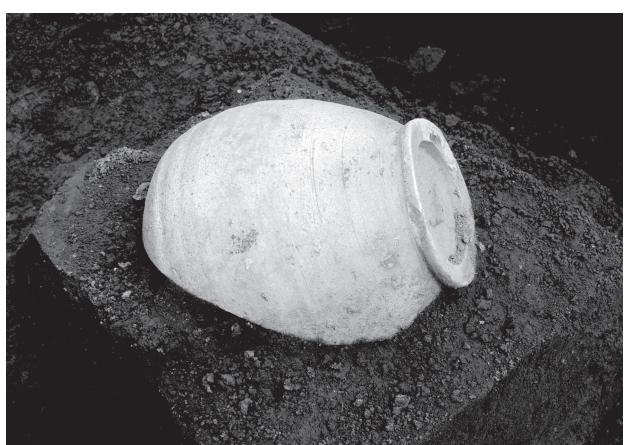
H-1~5完掘全景／西から



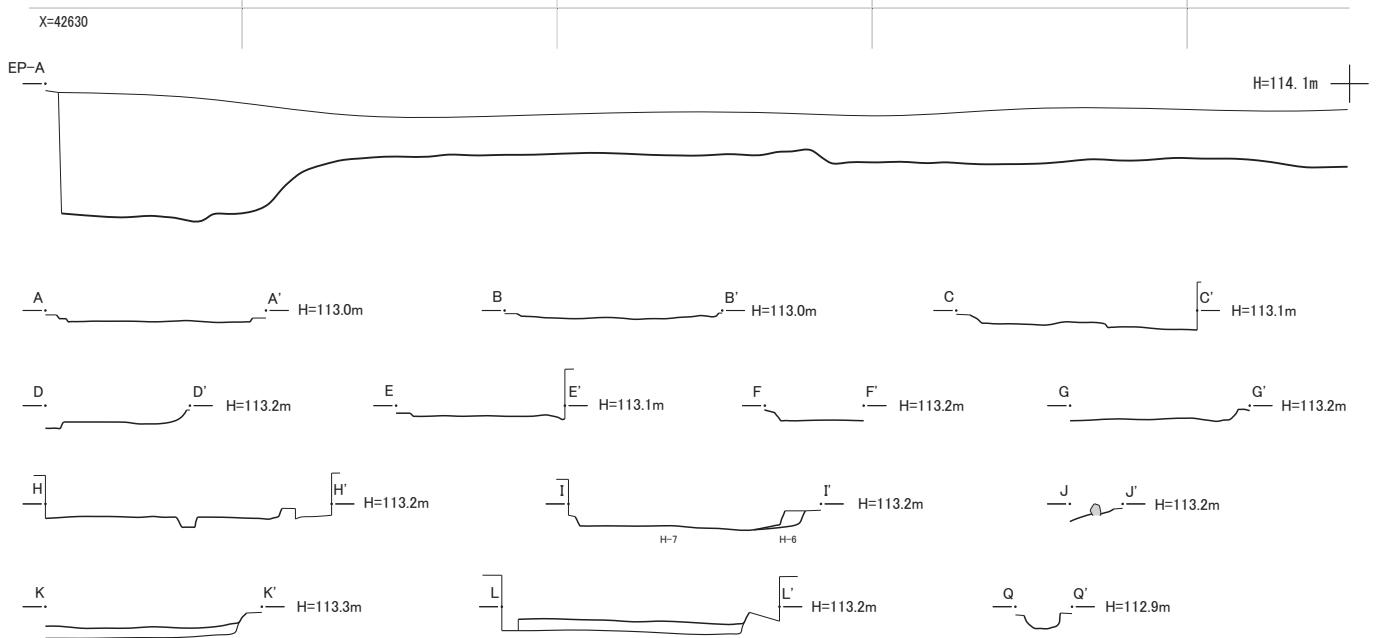
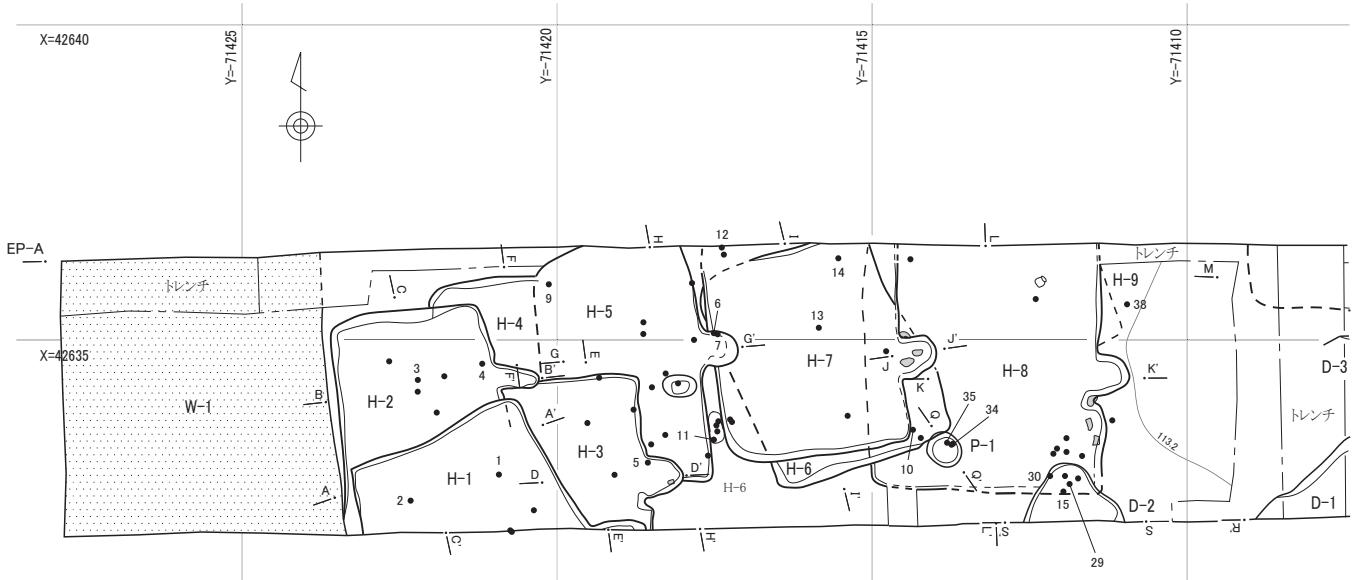
H-1~5完掘全景／南から



H-1 緑釉陶器(1)出土状況／北西から

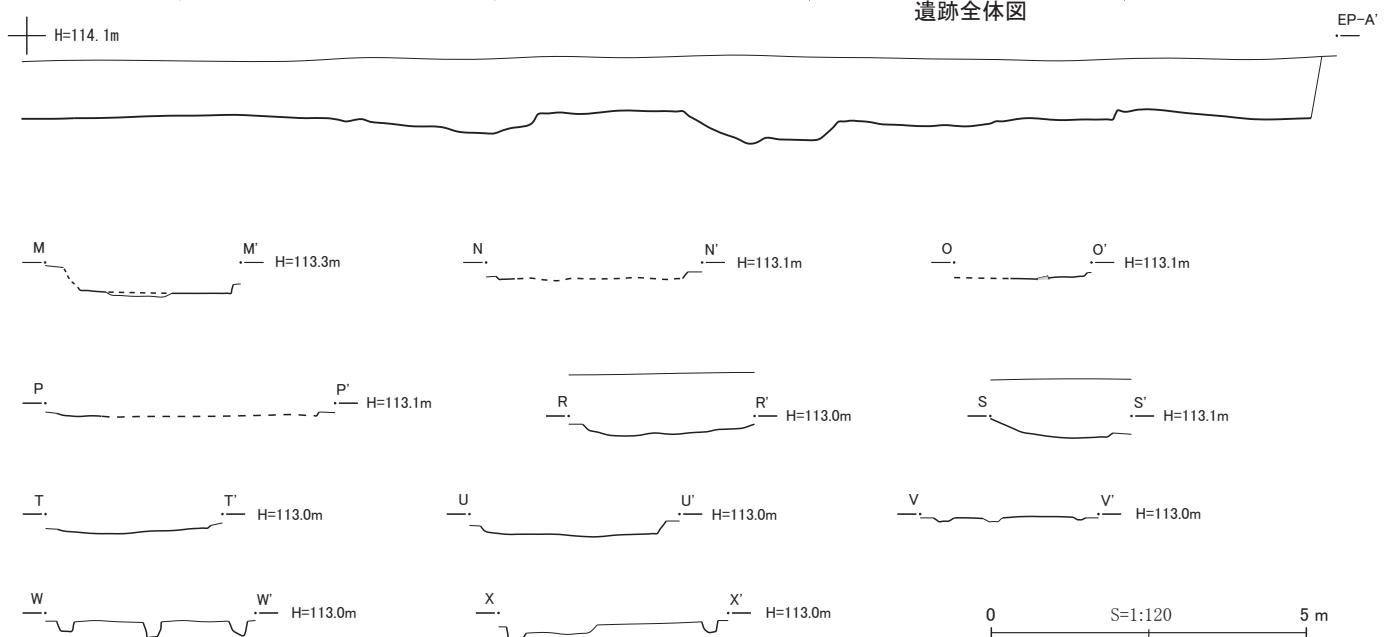


H-8 灰釉陶器出土状況／南東から



遺構一覧表

遺構名	方量(m ³)			新旧関係	主な遺物	平面形状	断面形状	主軸方位	カマド	床	柱穴	備考
	長軸(長)	短軸(幅)	深さ									
H-1	—	3.00	0.06	H-1>H-3	縄釉陶器、嵌入須恵器	隅丸方形？	凹形	N-72°-E	東カマド	×	×	
H-2	3.36	2.58	0.14	W-1>H-2>H-1	ヘラ描き須恵器坏	隅丸方形	凹形	N-83°-E	東カマド	×	×	
H-3	—	—	0.18	H-1>H-3>H-5	隅丸方形	凹形	凹形	N-87°-E	東カマド	○	×	
H-4	—	—	0.18	H-2、H-5>H-4	薬壺蓋	隅丸方形？	凹形	—	—	×	×	
H-5	3.72	2.54	0.14	H-5>H-4、H-7	円面鏡、刀子	歪な方形	凹形	N-85°-E	東カマド	○	×	貯蔵穴、床下土坑
H-6	3.68	2.94	0.26	H-7、H-8>H-6	隅丸方形	凹形	凹形	N-69°-E	—	×	×	
H-7	—	2.98	0.12	H-5>H-7>H-8	須恵器小鉢、釘	隅丸方形	凹形	N-61°-E	東カマド	○	×	
H-8	—	3.70	0.20	H-7>H-8>H-6、H-9	灰釉陶器壺、須恵器盤	隅丸方形？	凹形	N-90°-E	東カマド	○	×	
H-9	—	—	—	H-8>H-9		—	凹形	—	—	×	×	
H-10	—	2.44	0.16		隅丸方形？	凹形	凹形	N-88°-E	—	×	×	
H-11	—	2.94	0.03	H-12、W-2、4>H-11	鉄鍋？	隅丸方形	凹形	N-59°-E	東カマド	×	×	
H-12	—	3.94	0.05	W-5、6>H-12>H-11	隅丸方形？	凹形	凹形	N-97°-E	—	×	×	
B-1	—	3.16	—	D-4>B-1	長方形	—	—	N-114°-E	—	—	—	2×3間以上
D-1	2.54	—	0.14	D-1>D-3	歪な楕円形	レンズ形	—	—	—	—	—	
D-2	1.58	—	0.24	D-2>H-8	八稜鏡	楕円形？	レンズ形	—	—	—	—	
D-3	—	—	—	D-1>D-3	歪な楕円形	レンズ形	—	—	—	—	—	
D-4	—	1.88	0.16	D-4>B-1	馬骨？馬歯	かなり歪な方形	凹形	—	—	—	—	
D-5	—	2.14	0.12		須恵器横瓶	歪な方形	凹形	—	—	—	—	
W-1	—	3.5以上	0.92	W-1>H-2		直線	逆台形	N-6°-W	—	—	—	
W-2	—	0.26	0.08	W-3>W-2、4>H-11		直線、W-3、4平行	U字形	N-10°-W	—	—	—	道路側溝
W-3	—	0.32	0.08	W-3>W-2、4	緑釉陶器	直線、W-2、4平行	U字形	N-11°-W	—	—	—	道路側溝？
W-4	—	0.18	0.05	W-3>W-2、4>H-11		直線、W-2、3平行	U字形	N-9°-W	—	—	—	道路側溝
W-5	—	—	0.24	W-6>W-5>H-12	馬骨	直線、W-6、7平行	U字形	N-9°-W	—	—	—	
W-6	—	2.34	0.36	W-6>W-5		直線、W-5、7平行	U字形	N-7°-W	—	—	—	
W-7	—	2.40	0.52			直線、W-5、6平行	下に凸形	N-8°-W	—	—	—	
P-1	0.58	0.50	0.24	H-8>P-1		円形	凹形	—	—	—	—	



遺構断面図



D-2八稜鏡出土状況／東から



H-11カマド 土師器壺(20)出土状況／西から

H-7・8・11・12、B-1、D-1・2・5 完掘全景



H-7完掘全景／南から



H-8完掘全景／南から



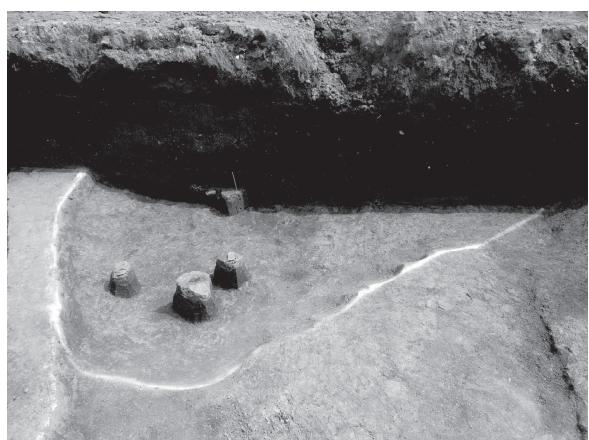
H-11完掘全景／北から



H-12完掘全景／北から



B-1完掘全景／西から



D-1完掘全景／北から



D-2完掘全景／北西から



D-5完掘全景／南から

W-1・7、P-1、道？ 完掘全景
H-1～5 出土遺物



W-1土層断面／南から



W-7完掘全景／南から



P-1完掘全景／東から



P-1遺物出土状況



道？全景／南から



H-1・2 出土遺物



H-3 出土遺物



H-4・5 出土遺物

H-5~12 出土遺物



H-5 出土遺物



H-6 出土遺物



H-7 出土遺物



H-7 出土遺物



H-8 出土遺物



H-8 出土遺物



H-9·10 出土遺物



H-11·12 出土遺物

W-2~7、D-2~5、P-1 出土遺物
遺構外出土遺物、綠釉陶器、八稜鏡



W-2~7 出土遺物



D-2~4 出土遺物



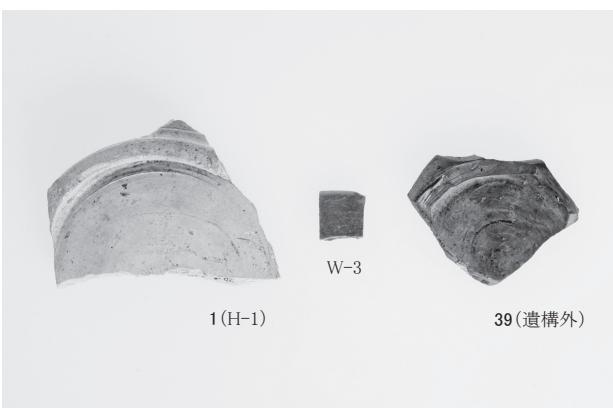
D-4・5、P-1 出土遺物



D-5 出土遺物



遺構外出土遺物



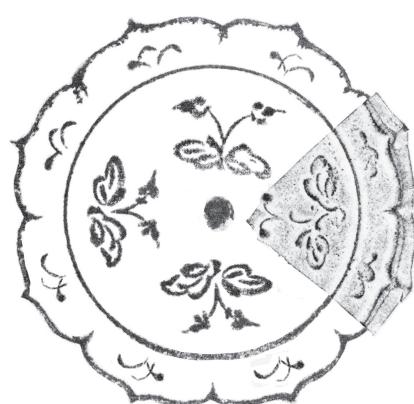
緑釉陶器



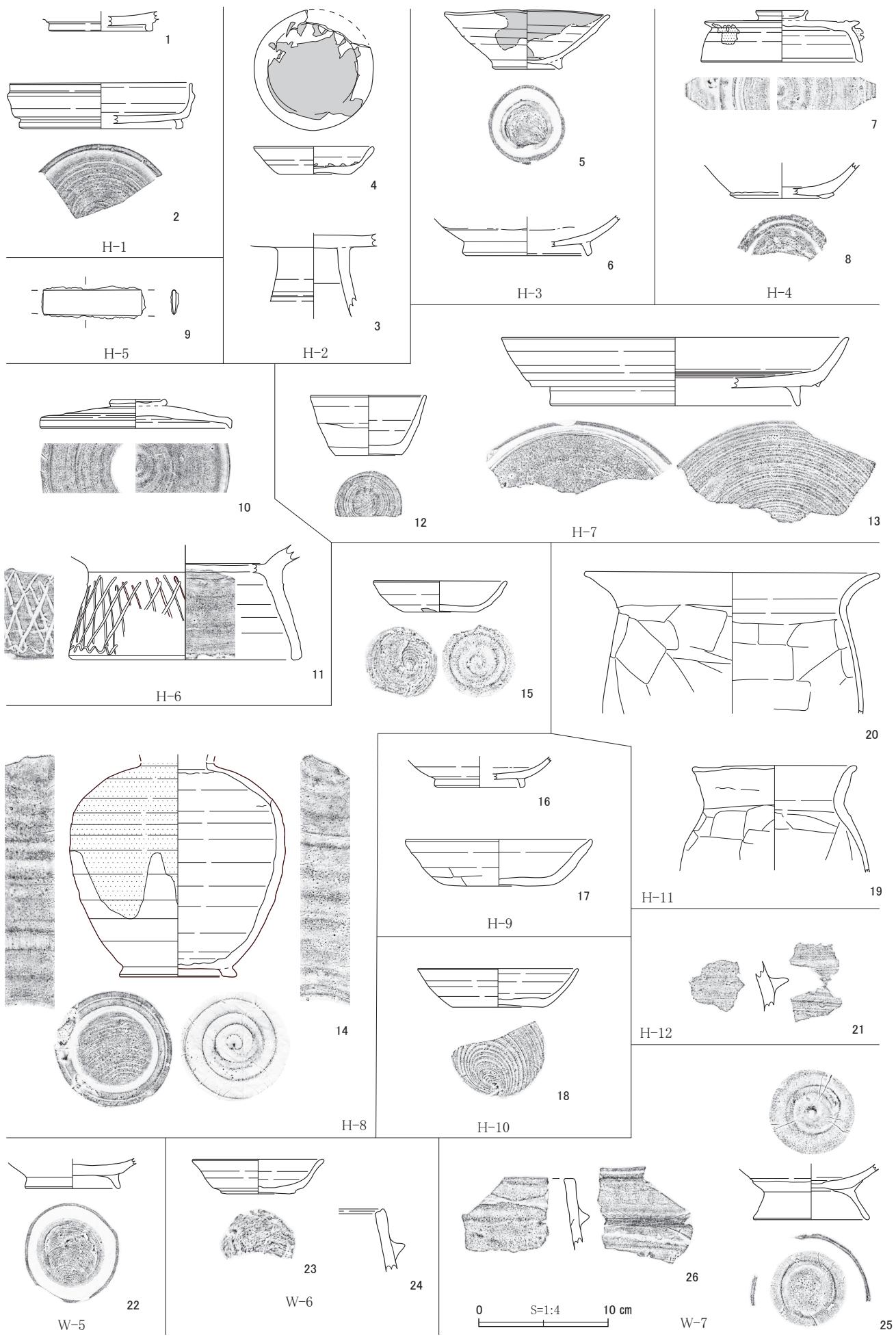
八稜鏡(裏)



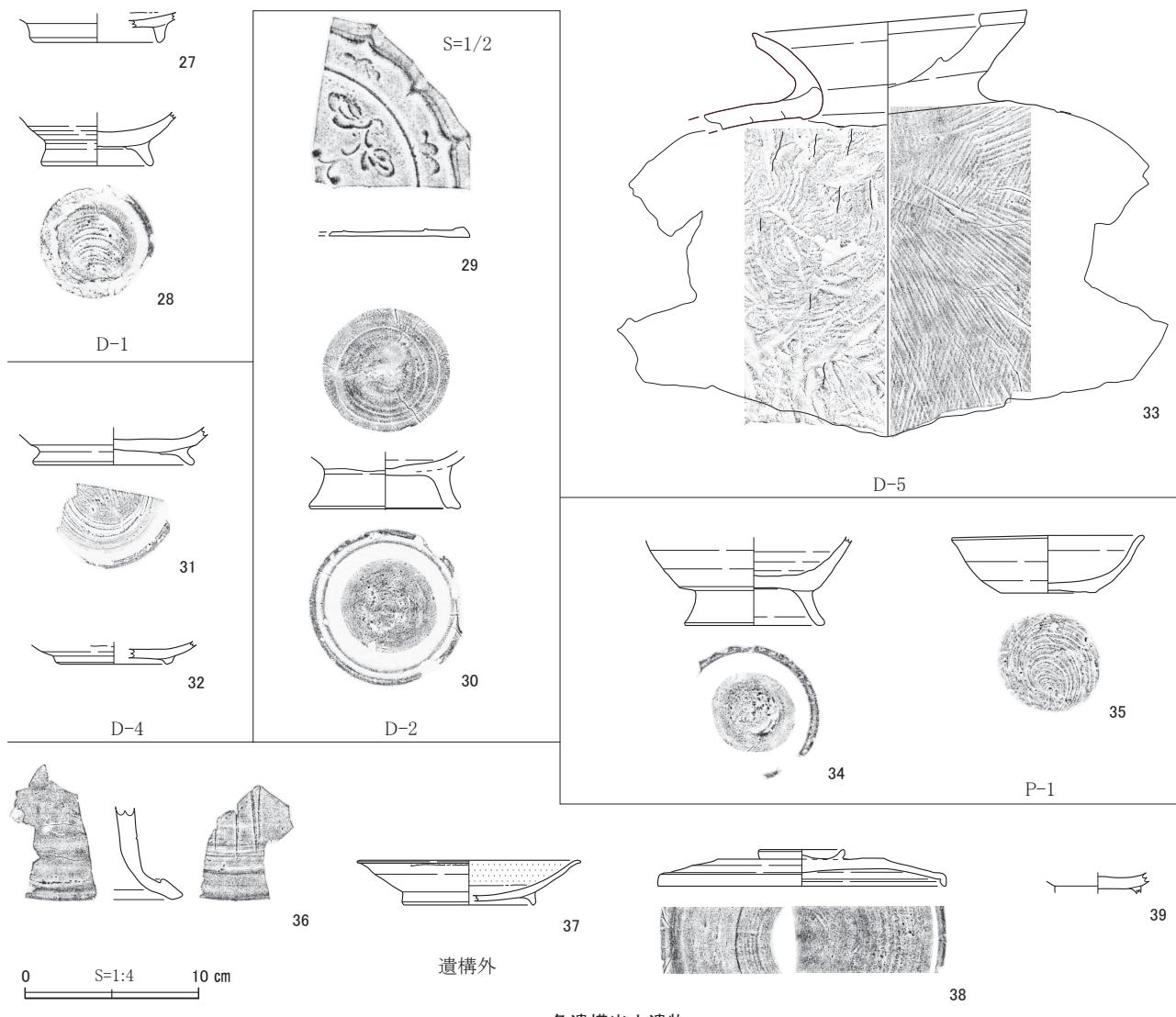
八稜鏡(表)



八稜鏡推定復元(約1/2)
※ 日光二荒山神社蔵を参考に作画



各遺構出土遺物



出土遺物観察表

※計測値の()は推定値、または残存値

No.	出土位置	種類	器種	法量(cm)			①色調	③胎土	特徴・成整形	備考
				口/長/径	底/幅	高/厚				
1	H-1No.1	縁釉陶器	椀	—	8.0	—	①明黄緑色 ②良好	③白雲母 ④破片	外面:ロクロナデ 底部ヘラケズリ 内面:ロクロナデ	尾張・美濃産
2	H-1No.2	須恵器	香炉	14.0	11.6	3.5	①灰色 ②良好	③長石 ④1/4	外面:ロクロナデ 底部ヘラケズリ 内面:ロクロナデ	猿投産? 神奈川県片瀬大源大遺跡類例出土
3	H-2No.4	須恵器	高杯	—	—	—	①灰色 ②良好	③石英、雲母、黒色粒 ④脚部	外面:ロクロナデ 底部ヘラケズリ 内面:ロクロナデ	脚部中位に沈線二条
4	H-2No.6	須恵器	杯	9.4	5.0	2.1	①褐色 ②良好(土師質) ④3/4	③石英、雲母、細礫、海綿骨針	外面:ロクロナデ 下部無調整 底部回転糸切り 内面:ロクロナデ	内面全体的に煤付着 灯明皿
5	H-3No.1	須恵器	杯	12.8	5.4	4.7	①灰白色 ②良好	③石英、雲母、細礫、黒色粒 ④完形	外面:ロクロナデ 底部回転糸切り 内面:ロクロナデ	カマド内出土 外外面に煤付着
6	H-3一括	灰釉陶器	椀	—	10.0	—	①灰白色 ②良好	③長石 ④1/3	外面:ロクロナデ 底部ヘラケズリ 内面:ロクロナデ	灰釉ツケガケ 東濃産 大原2号窯式
7	H-4一括	須恵器	葉壺蓋	12.6	—	4.0	①灰色 ②良好	③細礫、黒色粒 ④1/5	外面:ロクロナデ 上部ヘラケズリ 内面:ロクロナデ	外面アスファルト付着?
8	H-4一括	須恵器	椀	—	8.0	—	①黒褐色～橙色 ②不良	③石英、雲母 ④1/4	外面:ロクロナデ 底部回転糸切り 内面:ロクロナデ	
9	H-5No.1	鉄製品	刀子	(7.9)	(2.3)	(0.6)			重量:24.0	刃先、基部破損
10	H-6No.5	須恵器	杯蓋	14.8	—	2.2	①灰白色 ②良好	③石英、黒色粒 ④完形	外面:ロクロナデ 上部ヘラケズリ 内面:ロクロナデ	
11	H-6No.4	須恵器	円面鏡?	—	18.0	—	①灰白色 ②普通	③雲母、結晶片岩 ④脚部1/4	外面:ロクロナデ ヘラ描きで斜格子文と波形文 内面:ロクロナデ	大型
12	H-7No.8	須恵器	小鉢	9.0	5.2	4.6	①灰白色 ②良好	③チャート、黒色粒 ④1/2	外面:ロクロナデ 下半部、底部ヘラケズリ 内面:ロクロナデ	
13	H-7No.3	須恵器	盤状杯	26.8	19.4	5.2	①灰色 ②良好	③細礫、黒色粒 ④1/5	外面:ロクロナデ 底部ヘラケズリ 内面:ロクロナデ 底部後力キメ	佐波理写し? 搬入品?
14	H-8No.1	灰釉陶器	壺	—	9.0	—	①灰白色 ②良好	③長石、黒色粒 ④頸部～底部1/3	外面:体部上部ロクロナデ 下部ヘラケズリ 底部回転糸切り 内面:ロクロナデ 頸部横ナデ	尾張～三河産?
15	H-8No.2	須恵器	杯	10.3	5.7	2.4	①橙色 ②良好(土師質) ④2/3	③石英、雲母、細礫、白色粒	外面:ロクロナデ 底部回転糸切り 内面:ロクロナデ	外面下部～底部に煤付着
16	H-9一括	灰釉陶器	椀	—	7.0	—	①灰白色 ②良好	③なし ④底部1/5	外面:ロクロナデ 底部ヘラケズリ 内面:ロクロナデ	猿投産 黒雀90窯式
17	H-9一括	土師器	壺	14.4	8.6	3.6	①橙色 ②良好 ④1/6	③石英、雲母 ④横ナデ	外面:横ナデ 下部、底部ヘラケズリ 内面:横ナデ	
18	H-10一括	須恵器	杯	12.4	3.0	7.0	①灰色 ②良好	③石英、雲母、海綿骨針 ④1/2	外面:ロクロナデ 底部回転糸切り 内面:ロクロナデ	

No.	出土位置	種類	器種	法量(cm)			①色調 ②焼成	③胎土 ④残存	特徴・成形	備考
				口/長	底/幅	高/厚				
19	H-11No.5	土師器	甕	12.7	—	—	①褐色 ②良好	③雲母、細礫 ④口辺～体部	外面：口辺横ナデ 体部ヘラケズリ 内面：口辺横ナデ 体部ナデ	
20	H-11No.1	土師器	甕	22.8	—	—	①にぶい橙色 ③良好	③石英、雲母、結晶片岩 ④口辺～体部	外面：口辺横ナデ 体部ヘラケズリ 内面：口辺横ナデ 体部横ナデ	外面口辺、内面全体的に煤付着
21	H-12一括	須恵器	羽釜	—	—	—	①灰黄褐色 ②普通(土師質)	③石英、雲母、海綿骨針 ④錆部破片	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	
22	W-5一括	須恵器	椀	—	7.4	—	①灰白色 ②良好	③黒色粒 ④底部	外面：ロクロナデ 底部回転糸切り 内面：ロクロナデ	内面底部に使用痕
23	W-6一括	須恵器	坏	10.1	5.7	2.7	①にぶい黄橙色 ②普通(土師質)	③石英、雲母、チャート、細礫 ④1/4	外面：ロクロナデ 底部回転糸切り 内面：ロクロナデ	
24	W-6一括	須恵器	羽釜	—	—	—	①橙色 ②良好	③石英、雲母、細礫 ④口縁部破片2/3	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	
25	W-7一括	須恵器	椀	—	9.0	—	①灰白色 ②良好	③石英、雲母、細礫、黒色粒 ④底部	外面：ロクロナデ 底部回転糸切り 内面：ロクロナデ	足高
26	W-7一括	須恵器	羽釜	—	—	—	①橙色 ②良好(土師質)	③石英、雲母、細礫、結晶片岩 ④口縁部破片	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	
27	D-1一括	灰釉陶器	椀	—	7.8	—	①灰白色 ②良好	③長石 ④1/6	外面：ロクロナデ 底部ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	内面底部に使用痕 東濃産 大原2号窯式
28	D-1No.1	須恵器	椀	—	6.5	—	①にぶい黄橙色 ②普通(土師質)	③石英、黒色粒 ④4/5	外面：ロクロナデ 底部回転糸切り 内面：ロクロナデ	
29	D-2No.1	銅製品	八稜鏡	(11.4)	—	0.3	—	④1/5	重量:18.6	
30	D-2No.3	須恵器	椀	—	8.7	—	①黄灰色 ②良好(土師質)	③石英、雲母、結晶片岩 ④底部	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	内面底部に使用痕
31	D-4一括	須恵器	椀	—	9.2	—	①灰色 ②良好	③黒色粒 ④底部破片	外面：ロクロナデ 底部回転糸切り 内面：ロクロナデ	
32	D-4一括	灰釉陶器	皿	—	6.7	—	①灰白色 ②良好	③長石 ④底部1/5	外面：ロクロナデ 底部ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	内面底部に使用痕 東濃産 虎渓山1号窯式
33	D-5No.1	須恵器	横瓶	15.8	—	—	①灰色 ②良好	③石英、海綿骨針、黒色粒 ④口辺～体部1/6	輪積み成形(左回り) 外面：口辺横ナデ 体部平行タタキ 内部：口縁つまみ上げながらナデ 口辺横ナデ 体部同心円タタキ	
34	P-1No.2	須恵器	椀	—	8.1	—	①橙色 ②普通(土師質)	③雲母、細礫 ④底部	外面：ロクロナデ 底部回転糸切り 内面：ロクロナデ	足高
35	P-1No.3	須恵器	坏	11.1	5.5	3.3	①灰黄色 ②良好	③石英、雲母、チャート、細礫 ④完形	外面：ロクロナデ 底部回転糸切り 内面：ロクロナデ	
36	確認面	須恵器	円面硯	—	—	—	①灰色 ②良好	③白色粒、黒色粒 ④脚部破片	外面：ロクロナデ ヘラによる線刻 内面：ロクロナデ	搬入品?
37	確認面	灰釉陶器	皿	12.9	7.8	2.7	①灰白色 ②良好	③長石 ④1/3	外面：ロクロナデ 底部ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	良質 灰釉ツケガケ 東濃産 大原2号窯式
38	遺構外	須恵器	坏蓋	16.6	—	2.1	①黄灰色 ②良好	③石英、白色粒、黒色粒 ④2/3	外面：ロクロナデ 上部ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	
39	遺構外	綠釉陶器	椀	—	(5.0)	—	①オリーブ黄色 ②良好	③石英、石英片岩 ④底部破片	外面：ロクロナデ 底部ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	胎土 青緑色

4まとめ

最後にまとめとして、本遺跡の主体である奈良～平安時代の住居跡を中心に各遺構の新旧関係を整理し、本遺跡の帰属時期について推測することとする。

まず、H-1～9の重複状況を見ると最も新しいのはH-2で、以下”H-2>H-1>H-3>H-5>H-4>H-7>H-8>H-6・H-9”という新旧関係が、H-11・12の重複状況ではH-11>H-12という新旧関係が認められた。さらに土坑、溝との重複状況では、D-2>H-8、W-1>H-1、道(W-2・3)>H-11、W-6>W-5>H-12という新旧関係が認められた。いずれも、重複関係にある遺構の平面・土層断面の観察結果から判断した。次に出土遺物から各遺構の帰属時期について推定したいところであったが、出土遺物については出土地点を記録したものが少ないと、重複が著しい上に遺物から判断される時期に大きな差が認められないことから、出土遺構を確定することすら難しい状況である。なお、各遺構の明瞭な時期は示し難いが、出土遺物は9世紀末葉から10世紀前半を中心に8世紀中頃から11世紀後半までの年代に帰属するものが認められることから、新旧関係において最も古いH-4・6・9が8世紀代、最も新しいH-2が11世紀後半の年代と推測される。

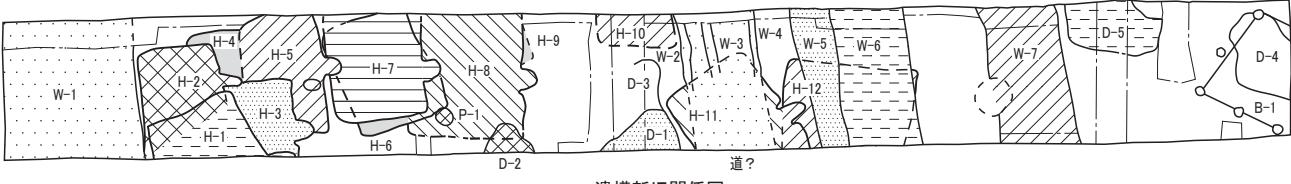
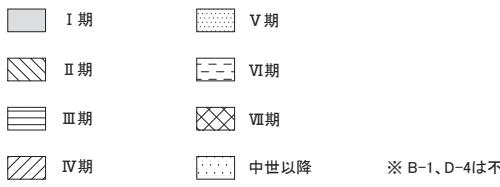
以下に前述の調査結果を踏まえ、その成果として相対年代を遺構新旧関係図、および遺構相対年代一覧表にまとめた。

本遺跡は8～11世紀にかけて営まれた集落であるが、綠釉陶器(1)、灰釉陶器(14)・(37)、須恵器坏(2)・盤(13)など搬入品と思われるもののや、刀子(9)、大形円面硯、または香炉(11)・(36)などの役所に關係すると思われる特殊な遺物が数多く見られ、この時期に見られる一般的な集落とは明らかな相違が認められた。狭い範囲の調査であり、隣接する天神遺跡を含めても集落の全体像を把握することはできなかったが、上野国におけるこの地域の特殊性を示唆できたこと、また本県において出土事例が少ない八稜鏡(29)が出土したことは古代社会を考える上で有益、かつ重要な情報を得られたことは大きな成果である。

遺構相対年代一覧表

I期	H-4、H-6、H-9
II期	H-8、H-11
III期	H-7
IV期	H-5、H-10、H-12、W-7
V期	H-3、D-1、D-2、W-5
VI期	H-1、D-5、W-6
VII期	H-2
中世以降	W-1、道？

凡例



遺構新旧関係図

5 群馬県内の八稜鏡出土事例

今調査の八稜鏡の出土によって県内遺跡からの出土事例は15遺跡18面となった。神社等に伝世する八稜鏡および同時期の和鏡、12ヶ所22面を合わせると計40面となり、見つかった場所の分布にはある一定の傾向が見受けられた。そこでそれらの鏡を紹介すると共にその分布について検討を加えてみる。元総社寺田遺跡I報告書の中で坂井隆は、21面の八稜鏡の分布を分析し、A一ノ宮貫前神社、B赤城山、C国府・総社地域、D榛名山、E神流川谷の5つの地域に分類し、A～Dは祭祀中心とした信仰対象に献納した、あるいはする予定にあったもの、Eは祭祀が行われたとするより、鏡を持って移動する人々が通った場所と考えられるとした。現在でもこの考察は基本的に支持できると思われる。しかし出土事例の増加により分類外の資料が出てきたことも事実である。そこで今回資料すべてを改めて再分類してみると5つの地域の他に東山道沿いの遺跡から5面と国府・総社地域に次ぐ数出土していた。国府・総社地域も東山道沿いの地域と考えることが可能である。このことは、坂井は否定しているが、鏡の出土した集落遺跡の種類を祭祀に鏡を使う呪術的宗教者の存在する山麓や高所の小集落または低地や扇状地の小集落、付近に国府・国分寺・有力社寺などがある地域の中心となる大集落の3つに分け、出土鏡には「呪術的宗教者の祭祀品」と「京の文化を受容できた有力層の私的所有物としての化粧道具」の2つの可能性があると述べた菊池誠一の論にも合致する部分があると思える。その可能性から考えれば、祭祀とは関係ないとされた神流川流域に伝世する鏡も呪術的宗教者＝密教僧・修驗道者と緑野寺(浄法寺)との関連が推察可能ではないだろうか。いずれにしろ、今回の出土を含め県内の資料数が一定数になった今日、出土場所の検討だけではなく、出土状況や共伴遺物などの多視点の検討、他地域との比較によって改めて出土した八稜鏡の性格を考える時期になっていると考える。

群馬県内出土八稜鏡一覧表

()は実測図を元に計測・判断

分類 番号	遺跡名	所在地	遺構 名	出土状況	種類	残存	法量(cm/g)			文様		縁	界囲	鉢	時期	共伴遺物	備考	
							径	縁高	重量	外区	内区							
A	1 天神Ⅲ遺跡	前橋市元総社町	D-2	埋土中から背面を上に	草花八稜鏡	1/5	約11.4	0.3	18.6	草花文	草花文	蒲鉾式膨側高縁	単圈細線	—	11c	土師質椀、鉄塊	鏡面に包んだ布跡 日光二荒山神社蔵に近似鏡	
	2 鳥羽遺跡	前橋市鳥羽町・高崎市塙田町	G38住	中央部床面直上から鏡面を上に	八稜鏡か?	細片	—	0.2	—	唐花文?	(蒲鉾式)	無圈	—	—	10c後	須恵器杯、椀		
	3	N1住	北壁付近覆土中から背面を上に	唐草八稜鏡	完形	7.7 (0.2)	35.5	—	唐草文	(蒲鉾式)	単圈細線	遠山形素鉢	11c	—	—	黑色土器、灰釉陶器		
	4 正觀寺遺跡群	高崎市小木町・正觀寺町	72住	中央部から背面を上に	草花八稜鏡	1/3	11.2 (0.4)	—	草花文	草花文	(蒲鉾式)	(段闊)	—	—	11c後	帶金具、鍵、鉄鍔、羽釜	白銅製	
	5 元総社寺田遺跡	前橋市元総社町	IV区2面	旧河道面、褐色砂礫土中	瑞花八稜鏡	外区2/3欠	7.4	0.1	7	飛雲文	瑞花文	蒲鉾式細縁	単圈細線	円錐形素鉢	11c後	—		
	6	H-115	中央南寄り床面直上から背面を上に	瑞花双鳳or雙鸞八稜鏡	完形	7.4	0.2	39	飛雲文	唐草文	堤塘式	單圈細線	截頭円錐形素鉢	11c後	—	大洞赤城神社蔵(伝世鏡No.2)に近似		
	7 堤上遺跡	高崎市三ツ寺町	瑞花双鳳or雙鸞八稜鏡	完形	9.2	0.4	80	飛雲文	瑞花・双草花文	(蒲鉾式)	(段闊)	截頭円錐形素鉢	酸化焼坏、黑色研磨小型壺、羽釜	—	—			
B	8 33C14(下大類類)遺跡	高崎市下大類町	住居	不明	瑞花双鳳八稜鏡	完形	—	—	—	飛雲文	瑞花・双鳥文?	(单圈?)	(截頭円錐形素鉢?)	11c頃	近接住居から土師質椀、羽釜			
	9 天田・川押遺跡	高崎市上大類町	52住	床面直上から鏡面を上に	瑞花双鳳八稜鏡	完形	約11.0 (0.5)	—	(点文?)	瑞花・双鳳文?	(蒲鉾式)	(单圈)	(遠山形素鉢?)	11c前	高台付坪、皿、羽釜			
	10 菖上原之城遺跡	伊勢崎市豊城町	ビット	埋土中から背面を上に	瑞花双鳳八稜鏡	完形	7.7	0.3	68	飛雲文	瑞花・双鳥文	蒲鉾式膨側低縁	円形段闊?	花芯座鉢	11c?	—		
	11 神人村II遺跡	玉村町大字桶越	30土	3片に割れた状態で覆土中から	瑞花双鳳八稜鏡	完形	9.0	0.3	—	草花文(点文)	瑞花・双鳳文?	(蒲鉾式)	(段闊)	(截頭円錐形素鉢)	—	—		
	12 上渕名遺跡	伊勢崎市境上渕名	26住	覆土より上位の土層中	瑞花八稜鏡	完形	7.1 (0.3)	48.6	草花文(点文)	瑞花文	蒲鉾式	段闊	円錐形素鉢	平安時代末以降	湯口跡を摩り消した痕跡			
	13 別分八幡下遺跡	棟東村大字広馬場・大字新井住	2区5	覆土中	小型儀鏡?	完形	4.5	—	—	?	?	?	?	?	9c前	土師器坏、須恵器杯・蓋・高台付椀		
	14 養屋遺跡	渋川市御幸田	2住	中央北寄りから	瑞花双鳳八稜鏡	1/4	約10.0	0.4	—	?	双鳳文	(蒲鉾式)	(段闊)	—	10~11c	羽釜		
E	15 下芝五反田遺跡	高崎市箕郷町下芝	1建物	建物中央部・基盤層(As-B)に入り込んだ状態	瑞花双鳥八稜鏡	完形	9.4	0.5	73.3	草花文	瑞花・双鳥文	(蒲鉾式)	(段闊)	(截頭円錐形素鉢)	11c	—	鏡面に仏像2体彫り、堂宇出土	
	16 本宿・郷土遺跡	富岡市一ノ宮・田島	MT12 7住	不明	(瑞花双鳥八稜鏡?)	1/2 (8.6) (0.2)	—	(飛雲or草花文)	(瑞花・双鳥文?)	?	(单圈?)	—	11c前	土師器壺、土師質杯				
	17	耕作土	不明	八稜鏡か?	1/4 (約8.8) (0.9)	—	?	?	(蒲鉾式)	(段闊)	—	—	—	同層より鉄鍔、銅鉢	界幅約4.0cm			
	18 下高瀬上之原遺跡	富岡市下高瀬	13住	北壁付近覆土上層から鏡面を上に	瑞花双鳥文系?	外区3/5欠	7.6	0.15	15.4	飛雲文	瑞花・双鳥文	蒲鉾式膨側高縁	單圈細線	截頭円錐形素鉢	10c後	鐵刀子、鉄鍔具、銅鉢	貫前神社蔵(伝世鏡No.12)に似る 級に織維残る	

* 表は勢藤力氏提供資料を基に作成

* 引用・参考文献 群馬県教委・群理文1986『鳥羽遺跡G・H・I区』、群馬県教委・群理文1990『鳥羽遺跡L・M・N・O区』、高崎市教委1981『正觀寺遺跡群(III)』、群理文1993『元総社寺田遺跡I』、

群馬県教委1994・1995『堤上遺跡』、大類村史編集委員会1979『大類村史』、高崎市教委1983『天田・川押遺跡』、群理文1988『書上上下吉祥寺遺跡 書上上原之城遺跡 上植木老町田遺跡』、玉村町教委・玉村町遺跡調査会1992『神人村II遺跡』、伊勢崎市教委2008『上渕名遺跡VI』、棟東村教委1987『別分八幡下遺跡 申府神田遺跡』、渋川市教委1988『市内遺跡I』、群理文1999『下芝五反田遺跡』、富岡市教委1981『本宿・郷土遺跡発掘調査報告書』、群理文1994『下高瀬上之原遺跡』、広瀬都賀 1974『和鏡の研究』

群馬県内伝世鏡一覧表

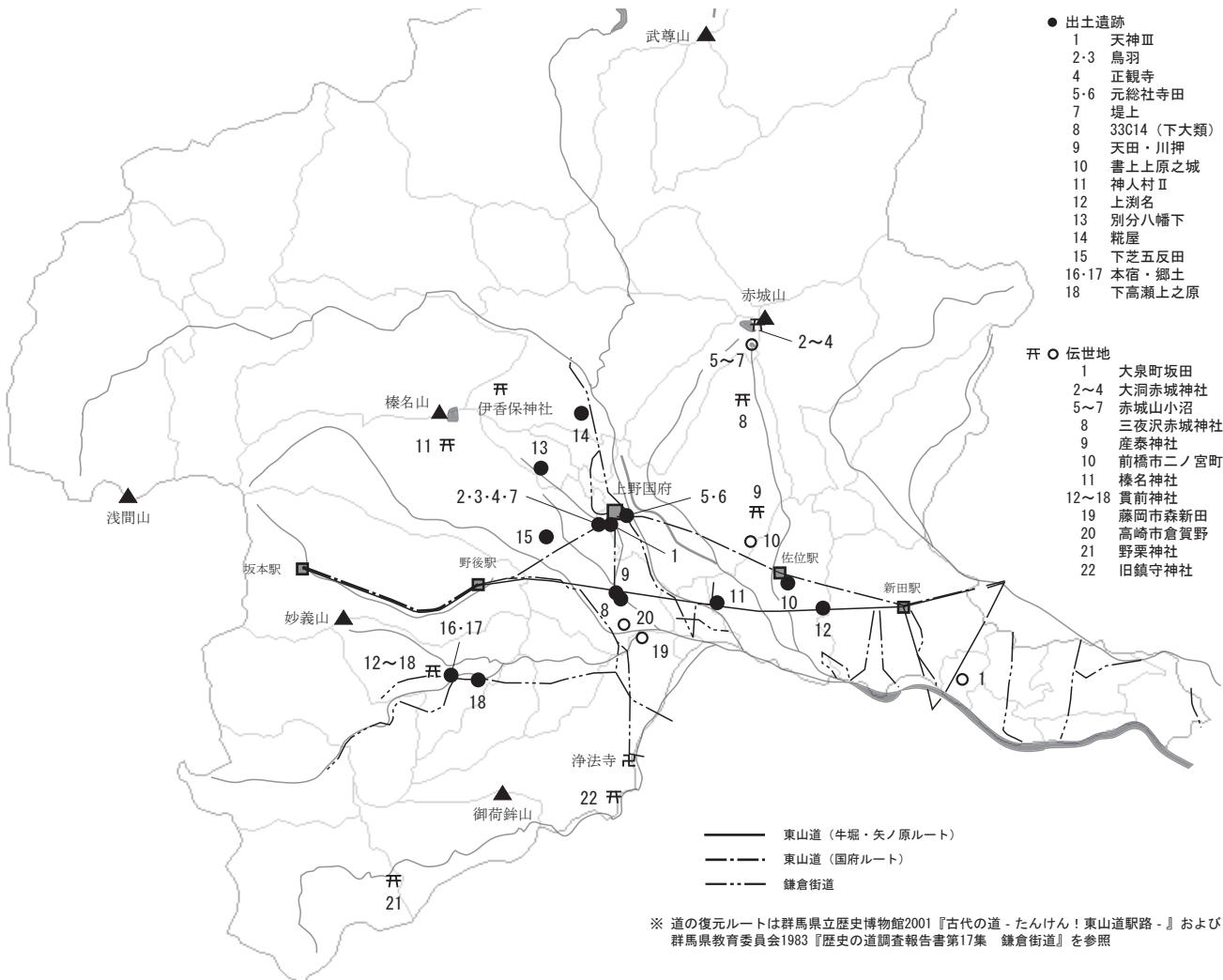
分類 番号	伝世場所	伝承地・所在地	種類	残存	径(cm)	時期	備考	引用・参考文献
B 1	東京国立博物館	大泉町坂田	唐草四花鏡	完形	9.7	平安時代		群馬県立歴史博物館1980『群馬の古鏡』
2	富士見村赤城山小沼	唐草八稜鏡	完形	6.9	平安時代			"
3	大洞赤城神社	唐草双鳥八稜鏡	完形	11.3	平安時代			"
4	富士見村赤城山大沼小鳥ヶ島	網代文鏡	外区1/6欠	8.7	平安時代	円鏡 県指定重要文化財		"
C 5	国学院大学	?	外区1/3欠	10.5	平安時代	鉄製円鏡		"
6	富士見村赤城山小沼	瑞花双鳳八稜鏡	1/2	?	平安時代?			坂井隆1988『八稜鏡の出土とその意味』『書上上下吉祥寺遺跡 書上上原之城遺跡 上植木老町田遺跡』
7	?	瑞花鶯鶯八稜鏡	完形	?	平安時代?			"
8	三夜沢赤城神社	前橋市三夜沢町	瑞花双鳳八稜鏡	完形	9.1	平安時代		群馬県立歴史博物館1980『群馬の古鏡』
9	産泰神社	前橋市下大屋町	瑞花双鳳八稜鏡	完形	17.6	平安時代		"
10	個人蔵	前橋市二ノ宮町	瑞花双鳳八稜鏡	完形	9.8	—		坂井隆1988『八稜鏡の出土とその意味』『書上上下吉祥寺遺跡 書上上原之城遺跡 上植木老町田遺跡』
D 11	榛名神社	高崎市榛名山町	双鳳麒麟八花鏡	完形	17.0	平安時代		群馬県立歴史博物館1980『群馬の古鏡』
12			瑞花双鳥八稜鏡	完形	14.2	平安時代		"
13			瑞花双鳳八稜鏡	完形	15.5	平安時代		"
14			瑞花双鳳八稜鏡	完形	11.5	平安時代		"
15	貫前神社	富岡市一ノ宮	瑞花双鳥六稜鏡	完形	13.0	平安時代		"
E 16			草花双鳥鏡	完形	14.2	平安時代	円鏡	"
17			草花双鳥鏡	完形	14.2	平安時代	円鏡	"
18			草花双鳥鏡	完形	8.2	平安時代	円鏡	"
19	個人蔵	藤岡市森新田	山吹双雀鏡	完形	10.8	平安時代	円鏡	"
20	個人蔵	高崎市賀野周辺?	瑞花双鳥八稜鏡	完形	10.7	平安時代		"
F 21	野栗神社	上野村大字新田	瑞花双鳥八稜鏡	完形	9.0	平安時代		"
22	田鎮守神社	藤岡市譲原	唐花双鸞八稜鏡	完形	10.4	平安時代		"

地域分類

- A 国府・総社周辺
- B 東山道筋周辺
- C 赤城山山頂~山麓
- D 榛名山山頂~山麓
- E 贯前神社・鎌川流域周辺
- F 緑野郡内神流川流域

* 参考文献

菊池誠一 1987『平安時代の集落出土鏡の性格-東日本の出土例を中心に-』『物質文化』49
久保智康 1999『中世・近世の鏡』
日本の美術394
杉山洋 1999『古代の鏡』日本の美術393
広瀬都賀 1974『和鏡の研究』



群馬県内の八稜鏡出土遺跡及び伝世地

発掘調査報告書抄録

ふりがな 書名	てんじん 天神Ⅲ遺跡					
副書名	レオパレス21小鮎邸新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
編著者名	山下巖信・大嵩崎泰明・笠原仁史					
卷次	一					
シリーズ名	一					
シリーズ番号	一					
編集機関	前橋市教育委員会 管理部文化財保護課					
所在地	〒371-0018 前橋市三俣町二丁目10-2 TEL 027-231-9531					
発行年月日	西暦 2008年 8月15日					

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
テンジン 天神Ⅲ遺跡	マエハシシモトソクジヤマチ 前橋市元總社町 アザハヤミチ 字早道	10201	20A140-1	36° 23' 05"	139° 02' 03"	2008.06.02 ~ 2008.06.15	172.2m ²	アパート建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
天神Ⅲ遺跡	集落	奈良～平安	住居 掘立柱建物 土坑 溝状遺構 ビット 溝状遺構(堀) 道状遺構	12軒 1棟 5基 3条 1基 1条 1筋	須恵器、綠釉陶器、灰釉陶器、鉄製品 須恵器、八稜鏡 須恵器
要約	奈良～平安時代の住居跡、中世以降の堀・道?などが確認された。出土遺物に一般的な集落ではあまり見られない八稜鏡・綠釉陶器・大型円面鏡など特殊なものが認められた。				

天神Ⅲ遺跡	印刷 平成20年 8月12日	朝日印刷工業株式会社
	発行 平成20年 8月15日	前橋市教育委員会文化財保護課 群馬県前橋市三俣町 2-10-2 027-231-9531